

【論 文】

アクティブ・ラーニングによる敬語指導の実践研究†

―場面と人間関係を意識した授業を目指して―

福岡 昌子*

三重大学地域人材教育開発機構*

本稿は、場面や人間関係に応じて、学んだ敬語の知識をどのように適切に選択し、的確に表現できるようになるか、留学生を対象にアクティブ・ラーニングによる敬語指導を行い、その指導方法の効果を検証した。本授業では、敬語の復習としての基礎練習（尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語他）、総合的な敬語の実践練習として、映画鑑賞、講演会の実施、ミニ芝居の作成と演技、メールや手紙（礼状）の指導を行って、4技能（読む・書く・聞く・話す）の面から総合的に敬語指導を行った。

実施した指導結果やアンケート結果から、どの学生も本授業の目標の一つである場面や人間関係に適した敬語が大切であることを理解し、将来日本語を使って働くことを目標にするなど、敬語学習の先に築きたいものを明確に見据えていた。敬語学習は日本語上級レベルの総仕上げという意味で、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践の場を多く提供することが重要であることを明らかにした。

キーワード：留学生、敬語、場面、人間関係、講演会、ミニ芝居、アクティブ・ラーニング

1. はじめに

留学生は、今後グローバル社会において専門的な知識・技能を持つ「高度外国人材」としてその需要がますます高まっている。「高度外国人材」とは、研究者やエンジニア等の専門職および海外進出を担当する営業職・法務等の専門職、経営に関わる役員や管理職、既に経営に関わるなど高度な役割を果たしている外国人材、留学生など将来高度な役割を果たすことになるべき外国人材、日本国内組織の中でビジネスを中心に働く外国人材で、教育レベルでは大卒以上、在留資格が研究、技術、人文知識・国際業務の人材を指す¹⁾。

1983年に「留学生10万人計画」が発表された当時、留学生は卒業後帰国し母国で就職する留学生が多かったが、2008年7月に「留学生30万人計画」が策定されて以降、関係省庁・機関が連携して留学生の日本就職を支援する事業として、留学生の受入体制の拡充から卒業後の雇用の促進まで様々な事業を推進してきた。日本企業においても、専門的な知識・技能を持つ「高度外国人材」として、留学生を積極的に採用するようになった。

このような社会状況の変化もあり、三重大学国際交流センターでは一般日本語教育コースの見直しを図り、「上級総合日本語3」として前期・後期に「敬語」「ビジネス日本語」の授業を再開することにした²⁾。

敬語は、初級では文法レベルで敬語の動詞変化を学ぶが、中級レベル以降は総合的に学ぶ機会が少ない。留学生は学外でアルバイト等を通し敬語を使う機会に触れて初めて、敬語の重要性に気づく。「高度外国人材」として日本社会で就職を検討する留学生にとっては、社会に出る前の最後の機会として敬語を学び直したいという学生が多い。

本稿では、現在の敬語の研究動向を踏まえ、留学生を対象にアクティブ・ラーニング³⁾を取り入れた敬語授業の検証を行う。次節以降は、敬語研究の背景、授業の概要、基礎練習内容、講演会、ミニ芝居、授業前・後アンケート結果、考察について述べる。

2. 敬語研究の背景

2007年に『敬語の指針』が公表され、「尊敬語」「謙譲語Ⅰ」「謙譲語Ⅱ（丁寧語）」「丁寧語」「美化語」に5分類された⁴⁾。森（2017）によれば、公表以降、歴史語用論・歴史社会言語学といった新しい研究分野の名前が浸透し、配慮表現を始めとした、対人配慮を果たす言語形式には何があるかという研究が大きく進んだという。そして、近年の敬語の運用の傾向として、聞き手に配慮して話題の敬語を抑制する、というように聞き手が要因となって発話者の「発話態度の標示を重視する」運用の仕方に変化してきていると指摘する。この傾向は、敬語指導に

においても、聞き手を配慮した指導内容が重要になってきていることが考えられる。

教育の面において、母語話者・非母語話者いずれに対しても共通する敬語教育の在り方として、「待遇コミュニケーション」という敬語教育がある。それを展開している蒲谷（2017）は、学習者は日本語によるコミュニケーション主体として、ある「場面」における「意識」－「内容」－「形式」を適切に連動させるために、敬語に関する知識・情報を生かしながら、敬語を適切に選択し、的確に表現し、理解していく力を養うことが重要であると述べている。そして、敬語的性質の全体について体系的に理解しておくことは大切であるとした上で、動作に関する人物を「高くする」、改まりの高い場において「改まりを示す」、イタダク、クダサルなどの「恩恵を表す」敬語表現を適切に使いこなせるようになることが、最重要課題であると述べる。日本語教育の経験において、蒲谷の指摘は重要であると考えられる。

本研究では、森（2017）や蒲谷（2017）の指摘を踏まえ、学生を対象に敬語指導のためのアクティブ・ラーニング型授業を検討し実施した。日本語教育において、上級レベルに達した学習者が更に自己の日本語を高めようとするとき、敬語は避けて通れない。コミュニケーション力を高めるだけではなく、コミュニケーションの先に築きたいものを見据えた指導を行うべきである。

3. 授業の概要

2018年度より、国際交流センターでは履修登録を登録用紙への記入から、留学生自身によるPCによる履修登録へと移行させている。本授業の科目がリストアップされてなかった経緯もあり、受講者は17名（所属：大学院1名、学部2名、交換留学生14名、国籍：ドイツ3名、韓国2名、中国12名）だった。

3.1. 授業の目標

本授業の目標は、次の2点にまとめられる。

- (1) コースの前半では、尊敬語、謙譲語、丁寧語、丁寧語、美化語の形式、使い方について復習する。
- (2) コースの後半では、敬語を使う場面が多い邦画鑑賞、教員開催のオープンクラス型講演会、グループに分かれ企画するミニ芝居、礼状（講演者宛）書き方指導を行う。アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れ、実践活動を通して敬語を学ぶ。主なシラバスは表1のとおりである。

表1 「上級総合日本語3A」

第1回	オリエンテーション、アンケート 基礎練習1. 敬語の使い方、課題説明
第2回	基礎練習2. 尊敬語
第3回	基礎練習3. 謙譲語
第4回	基礎練習4. 謙譲語（丁寧語）
第5回	基礎練習5. 丁寧語
第6回	基礎練習6. 美化語、その他
第7回	基礎練習7. ビジネス場面での敬語 （電話）、総合練習①問題集
第8回	中間試験
第9回	試験のフィードバック、実践練習1. 日本映画から学ぶ敬語『秋日和』
第10回	実践練習2. ゲスト講演会 野辺野神社の神主 山中フローリアン氏
第11回	実践練習3. グループミニ芝居 敬語練習のためのグループ活動計画
第12回	グループミニ芝居
第13回	グループミニ芝居
第14回	グループミニ芝居
第15回	実践練習4. 書き言葉としての敬語－ 礼状を書く
第16回	課題（ミニ芝居の SCRIPT 提出、礼状の提出）、アンケート

次に、主な指導項目にしたがって、実践した授業内容について述べる。

3.2. 基礎練習1～7：敬語の復習

目的：敬語の形式を再度理解し、復習する。

方法：第1回から第7回までは、尊敬語、謙譲語、丁寧語、丁寧語、美化語の形式などを解説し、総合問題を解く。また、様々な不適切な敬語についてディスカッションをしたり、総合練習として文法や敬語表現の問題を解いたりすることで、これまで学んできた敬語の整理や復習を行う。

3.3. 実践練習1：日本映画から学ぶ敬語

目的：敬語が多く使われている日本映画を見て、敬語表現がどのくらい聞け、理解できるか知る。

方法：映画の鑑賞を行った。三重県出身の映画監督の小津安二郎の作品『秋日和』の前半を視聴し、聞き取れた敬語表現を記述させる。

3.4. 実践練習2：ゲスト講演

目的：講演者の話を聞いて、適切な敬語表現を使って、質問や感想が述べられるようにする。

講演者：野辺野神社（津市）神主（禰宜）山中フローリアン（32歳）

方法：教師主催のオープンクラス授業として、講演会を実施し、講義内容を理解し、敬語で質問や感想を述べる。

3.5. 実践練習3：ミニ芝居

目的：敬語表現が、人間関係、場面、敬語表現を考えて使われているか、敬意が演技に現れているか、ミニ芝居による実践練習を行う。

方法：1グループ2名前後、合計7グループに分かれ、敬語を使ったミニ芝居を行う。まず、登場する人物の人間関係、場面を設定し、約5分間のシナリオを書く。演技を伴う一連のミニ芝居を他の学生の前で実演する。他の学生はスクリプトなしのミニ芝居を見て、敬語表現や演技で不適切だった点について意見を述べ合う。次に、スクリプトを配布し、さらに詳細に敬語表現をチェックし合う。

3.6. 実践練習4：お礼の手紙を書く

目的：書き言葉としての敬語を書く実践練習をする。

方法：まず、手紙や礼状の書き方について説明し、次に、実践練習2のゲスト講演会で招いた野辺野神社（津市）神主の山中フローリアン氏に、ミニ芝居のグループメンバーでお礼の手紙を書く。学生間のチェックを経て修正を行い、教員がまとめて学生のお礼の手紙を山中フローリアン氏にお渡しする。

4. 結果

4.1. 基礎練習1～7：敬語の復習

平林・浜(1988), 菊地(1994), 三吉・矢島(2004), 草薙(2006), 蒲谷他(2009)を参照しながら、尊敬語、謙譲語、丁重語、丁寧語、美化語について、毎回パワーポイントで講義し、授業の後半で問題練習を解いた。

表2. 「敬語の復習：基礎練習1～7」

基礎練習1 「敬語の 使い方」	基礎練習1. 「敬語の使い方」 ①不適切な敬語例 ビデオ「日本人の知らない日本語」 ②敬語の使い方1. ・どんな人間関係、場面・話題なのか ・敬語表現以外の敬意の示し方 ・敬語が持つ効果とは？ ③敬語の5分類
基礎練習2 「尊敬語」	基礎練習2. 尊敬語 ①尊敬語：動作の主体（高くするか・低くするか） ②初級で学んだ尊敬語の復習 ③尊敬表現の違いについて （例：先生は私に地図をお書きになりました。先生は私に地図を書いてくださいました。） ④不適切な尊敬表現 ⑤練習問題
基礎練習3 「謙譲語」	基礎練習3. 謙譲語 ①謙譲語：動作の主体（高くするか・低くするか） ②初級で学んだ謙譲語の復習 ③不適切な謙譲表現 ④尊敬語と謙譲語を使った会話練習 ⑤練習問題
基礎練習4 「謙譲語」 （丁重語）	基礎練習4. 謙譲語（丁重語） ①丁重語：動作の主体（高くするか・低くするか） ②丁重表現に言い換える。 ③練習問題
基礎練習5 「丁寧語」	基礎練習5. 丁寧語 ①普通体と丁寧体の違い（会話） ②丁寧さを増すための表現方法 （文を言い切らない方法、前置き表現） ③丁寧の程度（低から高まで） ④会話からわかる関係性 ⑤練習問題

基礎練習 6 美化語, その他	基礎練習 6. 美化語, その他 ①「お」の付く言葉, 「御」の付く言葉 ②名詞・副詞の丁寧な改まった表現 ③形容詞の敬語表現 ④丁寧なEメールの書き方 (先生に, 推薦状を書いてもらう.) ⑤練習問題
基礎練習 7 ビジネス場 面での敬語	基礎練習 7. ビジネス場面での敬語 (電話) 6) ①内と外 ②用件を確認・担当者へ取り次ぐ. ③担当者が電話中・不在 ④後で電話をかけなおす. ⑤電話の内容を伝言する. ⑥取り次ぎを頼む, 伝言を頼む ⑦練習問題

基礎練習 1~7 に関する中間試験の結果は平均 84.6 点で, 基礎練習 6④の丁寧なEメールの書き方における敬語表現や依頼内容の点数が取れていなかった。

4.2. 実践練習 1: 日本映画で学ぶ敬語

小津安二郎の作品『秋日和』の前半 (約 30 分間) を視聴し, 内容をどの程度理解しているか質問を行い, 聞き取れた場面とその敬語表現を発表させた。留学生が記述したメモを挙げれば, 「お願い致します / おいくつですか / お忙しいところ, わざわざいらして下さってありがとうございます / おかげさまで / お待ちどうさま / 恐れ入ります / 申し訳ございません / 今日は初めてお目にかかったんです / おきれいですわ / どうぞお掛けになってください / よさそうな方ですわね / お待たせいたしました / お待ちになっております / ご覧ください」であった。このように, 聞き取れた敬語表現は, 短い台詞ばかりであったが, 尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語など明記して書く者もいた。また, この作品は母娘の愛情を扱った内容であること, 登場人物の人間関係についてもほぼ理解することができていた。

以下, 鑑賞した感想について列挙する。『秋日和』が 1960 年の古い作品であるためか, 現在耳にする敬語表現と違いがあること, 小津安二郎の撮影手法に違和感がある等の感想があった。

- ・敬語がたくさん使われていたので, 理解しにくかった。
- ・「わ」や「かしら」など女性用語が使われていました。穏やかな生活の中で, 母と娘の感情が自ずから現れていました。
- ・女優の話し方には少し違和感がありましたが, とても新鮮でした。
- ・言葉がとても美しいです。現在の表現と少し違います。日本の古い映画を見たいと思います。
- ・この映画には時代感があった。お年を取った方はほとんど着物で, 若い世代の女の子は洋服を着ている。「和洋折衷」な社会で, 中国の 70 年代と似ている。
- ・言葉がとてもきれいで, 上品な感じだと思う。言葉としぐさを通じて, 日本の女性の魅力が感じられました。

4.3. 実践練習 2: ゲスト講演「野辺野神社の神主」

2019 年 7 月 22 日 (月) 津市久居にある野辺野神社の神主 (禰宜), 山中フローリアンさんを「上級総合日本語 3A - 敬語を学ぶ」の授業にお招きして, 講演会を開催した (於: 国際交流センター視聴覚室)。教員主催のオープンクラス型講演会したことで, 本授業の受講者以外に, 中級 I, 中級 II, 他の上級クラスの留学生, 市民, 教職員, 約 60 名の参加があった。筆者による野辺野神社の歴史や山中フローリアン氏の紹介の後に, 下記の項目に従って講演が行われた。以下, 講演内容について質問項目ごとに簡単に記す。

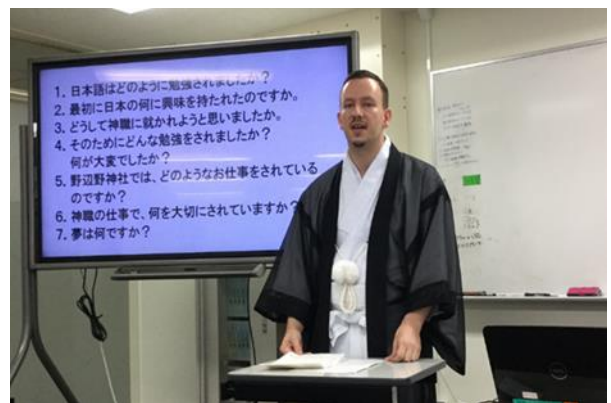


図 1. 講演: 野辺野神社の神主 山中フローリアン氏

(1) オーストリア出身の山中フローリアンさんがなぜ神主に就かれたのですか。最初に日本の何に興味を持たれたのですか。

両親が地理の先生で世界の写真を見せてくれる中

で、幼少時から日本の文化、特に神社に興味を持っていた。ウィーン大学を出て、17年前に神主の資格を取るために国学院専攻科で学び、5年間渋谷の神社で仕事をした。結婚したことで、野辺野神社の神主となった。

(2) 神主になるために、どんな勉強をされましたか？何が大変でしたか？

神社について、本のみから知識を得ることが難しく、徐々に神社で体験をしてみたいと強く思うようになり、20歳の時初め名古屋の神社で神主の仕事をさせていただいた。国学院ではたくさんの神道の科目を学んだ。しかし、実際に神社で仕事ができるようになって、日本の大学で多くを学んでも、本当に神主になれるか心配だったが、神様に見守れた形で現職に就けた。

(3) 神職の仕事で、何を大切にされていますか？

神様が末永くその地にいてくださるために、人々は昔から新しくきれいな建物を用意し、お供えものをして、掃除をしてきた。その過程で神主という専門職が生まれ、長い間その地を守り続けてきた。これからも次の世代に大切なもの、尊いものとして神社を次の世代に伝えなければならない。常に心が神様に向かうように心がけたい。

(4) 日本語はどのように勉強されましたか。

本やメディアを通して日本語を学んだが、言葉も実践しないとうまくなならない。人と言葉のキャッチボールを積んでいく中で、言葉の意味や使い方を実践で学んできた。神主になりたい強い夢があったことも日本語を学ぶ動機となったが、現在外国人が容易になれない神主の仕事に就いていることもあり、日本人以上に神道に関する基礎知識を勉強してきたつもりである。

(5) 夢は何ですか？

野辺野神社は、1300年前までは久居八幡宮という神社だった。2020年には野辺野神社ができて350年になるため、この機会に久居を守る神社という意味で、久居八幡宮と名称を変え、末永く久居の地を守っていききたい。また、外国人の神主として、自分にしかできないものを生かして、日本や人々に貢献していきたい。

以上、日本の神道や神社についてのご自身の考えを述べるだけでなく、神主になるにあたり、それまで信仰していたキリスト教を離れることに抵抗はなかったのかなど、多くの留学生や会場からの質問に丁寧にお話をしてくださった。留学生はオーストラリア人でありながら、日本の神主になられた山中フ

ローリアンさんのお話に、興味深く聞き入っていた。本授業の受講者は、予め質問と感想を用意するよう伝えていたが、全員質問と感想を述べることができた。

なお、本講演の後に、下記の内容で受講した全留学生にアンケートを実施した。

1. ミニ講演はいかがでしたか？

① () 75%理解できた。面白かったので、また、どなたかのお話を聞いてみたい。② () 50%理解できた。もっと理解できるように、がんばって勉強したい。③ () 話がむずかしくて、よくわからなかった。

2. 感想：自由に書いてください。

アンケートの結果によれば(留学生回収数33枚)、参加した留学生の73%が「75%は理解できた」、24%の留学生が「50%理解できた」、3%の留学生が「よくわからなかった」だった。以下、留学生が記述した自由感想を紹介する。

- ・ 300年前仏教と神教は一緒だったということを知らなかった。
- ・ 外国人が神主として働けるなんて、知らなかったです。いい経験、それよりいい動機になりました。
- ・ 山中フローリアンさんのお話は、とても面白かったです。
- ・ 日本、日本文化が好きです。これから日本へ来て、自分の好きな仕事をします。私もそんな勇気のある人になりたいです。
- ・ 自分の国ではない所で働くのは、僕の夢と同じで、僕も頑張ろうと思いました。
- ・ 山中さんが神主という仕事が性別・年齢・国籍には関係なく、重要なのはやることや成果だという話がいいなと思いました。
- ・ 日本の神道についての知識を学びました。
- ・ 外国人なのに、山中フローリアンさんの日本語は素晴らしいです。私も日本語が上手になるために頑張ります。

4.4. 実践練習2：ミニ芝居

3.5で示したように、作成したミニ芝居が、場面や人間関係、敬語表現をよく考えて使われているか、敬意が演技に現れているか実践練習を行った。全部で2,3名が1グループになり合計7グループが、約5分間のシナリオのもとに演技を行い、演技の後

に相互に意見を述べ合った。

その一例として、中国人交換留学生 2 名（女性）が作成したミニ芝居を次項に示す。下線が、演技終了後に他グループから文法上、または文法的に間違っていないまでも表現上指摘された箇所であり、斜線部分は最終修正箇所である。

なお、演技の場面設定や演技は、受講者の判断に委ね、教師は特別な場面設定や演技指導は行わなかった。

4.4.1. 「レストランで退職した上司に出くわす」

「場面 1：レストランで注文する」

登場人物：A:スタッフ B:お客さん

A：次お待ちのお客様どうぞ。

お待たせしました。何名さまお越しですか。

B：一人です。

A：では、ご注文伺います。

B：ひれかつ定食一つ。

A：はい、ひれかつ定食ひとつです。ドリンクはよろしいですか。

B：そうですね。じゃ、ソーダクリームをひとつ。

A：はい、ソーダクリームをひとつ。食後でよろしいですか。

B：料理と一緒に出してくれても（もらってもいいだけでも）いいですか。

A：はい、かしこまりました。ご注文以上でよろしいですか。

B：はい。

A：ひれかつ定食ひとつとソーダクリームひとつ。

以上で 1660 円でございます。ポイントカードはお持ちですか。

B：いいです（けっこうです）

A：1660 円ちょうど（ちょうど）お預かりいたします。

B：レシートはいらないです（けっこうです）

A：ではご案内いたします。お冷やをご用意いたしますので、少々お待ちください。・・・お客様お待たせしました。ご案内いたします。全席禁煙でございます。ご了承ください。こちらの席どうぞ。・・・お冷やのおかわりとお追加注文（~~お追加注文~~）はお席でできますので、近くのスタッフ（スタッフ）に声をかけてください。お料理は係り（係りが）お持ちいたします、ごゆっくりどうぞ。

B：はい、お願いします。

4.4.2. 「隣に座っていた人は退職した上司でした！」

「場面 2：退職した上司にばったり会う」

B：王さんですか。

C：ああ、宗さんだよ。ひさしぶりだなあ。

B：はい、お久しぶりです。お元気ですか。

C：まあまあ。会社の皆さんはどう？

B：おかげさまで、みんな元気です。王さんは昨年退職（ご退職）して以来、何をしていたらっしゃいますか。

C：しばらくゆっくり休んでから、妻を連れて海外旅行に出かけたんだ。昨日は帰ったばかりだ。（海外旅行に出かけて、昨日帰ったばかりなんですよ。）

B：そうですか。どこ（どちら）にいらしたか。

C：妻はずっと中国の料理を食べたいから（食べたがっていたから）、今度は中国に行った。

B：いいですね。王さんはやさしい旦那さんですね。奥様は幸せですね。この前、王さんの息子さんはもうすぐ結婚します（結婚する）と伺いました。本当ですか。

C：そうだね。今月末だ。

よかったら（よかったら）、ぜひ来てね。

B：誘っていただいてありがとうございます。しかし、今月末はあいにく海外出張にされます（がありません）ので、参れません（お伺いできません）。申し訳ございません。

C：いえいえ、大丈夫だよ。やっぱり仕事は大事だ。

B：この店いいですね、よくいらっしゃいますか。

C：うん、家から近いからだ（近いんですよ）。宗さんは？

B：実は、今日は初めですが、取引先に会いに来たついでによくこの辺で食事をします。

C：そうか、この店の料理は美味しいよ。

B：そうですか、注文したの料理を楽しみにしております（注文した料理が楽しみです）。

C：僕、そろそろ帰るよ。

B：はい、お気を付けてお帰りにください。

C：はい、またね。



図2. 実践練習2：ミニ芝居 (W・M, Z・M)

修正箇所を見ると、日本語レベルがかなり上級レベルに達していても、授受表現(～くれる/もらう)、～んです、第3者の願望表現(～たがっている)、発音(促音、撥音)など、習得が難しい部分であることが理解される。

4.5. 実践練習4.：お礼の手紙を書く

書き言葉は、4.1 基礎練習6の丁寧なEメールの書き方(先生に、推薦状を書いてもらう)で、練習はしているが、お礼の手紙を書く練習はその機会がないと、なかなか練習ができない。パワーポイントで敬語指導の一環として、手紙を書く練習を行った。

まず、①封書とはがきによる礼状としての使い分け、②礼状における敬語の使い方、③時候や結びの挨拶、④頭語や結語、⑤例(個人宛)の紹介を行った⁷⁾。次に、4.3.実践練習2：ゲスト講演「野辺野神社の神主」の山中フローリアン氏へ、お礼の手紙を書いた。4.4のミニ芝居で演じたグループごとに礼状を検討させ提出させた。

下記に、その一例としてドイツ人交換留学生3名(女性2名、男性1名)が書いたお礼の手紙を示す。下線が、提出後に他グループから文法上、表現上で指摘された箇所であり、斜線部分が最終修正箇所である。

他グループの礼状においても、手紙の前半部分は、季節の挨拶や結びの挨拶は同じような表現が使われていたが、中段の部分は各グループが山中フローリアン氏の講演を聞いた感想などが率直に書かれ、好感が持てる手紙文となっていた。

山中フローリアン様

拝啓

お疲れ様です (日増しに暑さが厳しくなってきましたが、ご清祥のことと存じます。)

私たちは先週に山中様のプレゼンテーション(に)参加していたM・I, A・B, R・Sです。

プレゼンテーションの内容はとても面白くて勉強になりました。おかげさまで神主に対する意識が一層に高まり理解を深めることができました。このような有意義な時間を提供していただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今後は日本の文化研修での貴重な体験を大いに活かし、精励して参る所在でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴神社の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。まずは書中をもちまして御礼申し上げます。

敬具

令和元年7月29日

M・I, A・B, R・S

5. 授業前・授業後のアンケート結果

質問項目は、次の7(8)項目である。留学生の関心のある(あった)項目は何かを深く探りたいため、複数に○をつけさせた項目もある。有効回答数は、授業前アンケートは17枚、授業後アンケートは母国での新学期開始に伴う帰国者の欠席により10枚だった。

5.1. 授業前のアンケート

- (1) 敬語は勉強したことがあるか
はい(94%)、いいえ(勉強したことがない)(6%)
- (2) 敬語は難しいと思うか。
はい(100%)
- (3) 敬語は今後しっかり勉強する必要があるか。
はい(100%)
- (4) 敬語で失敗したことがあるか。
はい(66.6)%, いいえ(33.3%)
- (4-1)どんな失敗でしたか? (「はい」を選んだ人へ)
・正しい動詞の活用をできなかった(25%)
・その場面で使うべき敬語を、間違えた(50%)
・その他(25%)
- (5) 敬語はどのように勉強しましたか。
・日本語初級の授業で(初級テキストで)(27.7%)
・日本語中級の授業で(中級テキストで)(27.7%)

- ・1人で、本だけで読んで勉強した (11.1%)
 - ・日本人との会話の中で勉強した (5.5%)
 - ・その他 (中国の大学の授業で) (27.7%)
- (6) 敬語の何が難しいですか。(2つ○をつける)
- ・動詞の形が変わる点 (23.1%)
 - ・尊敬語(15.4%), 謙譲語(10.3%), 丁寧語(5.1%)
 - ・どの場面で, どの敬語使うかわからない(35.9%)
 - ・その他 (どの人とどの敬語を使うか) (10.3%)
- (7) 敬語はどのくらいのレベルまで上手になりたいですか.
- ・仕事で, 敬語を使って場面ごとに使い分けて話せるようになりたい (26.1%)
 - ・仕事で, 商品を説明したり, プレゼンテーションしたりできるようになりたい (8.7%)
 - ・仕事で, 話すだけではなく, メールや手紙が書けるようになりたい (52.2%)
 - ・仕事で, 企画書を作ったり, 商談したりできるようになりたい (13%)
 - ・その他 (0%)
- (8) この授業では, 敬語をどんな方法で学びたいですか. 希望する練習方法などを書いてください. (自由記述)
- ・面接練習, 電話の受け方など.
 - ・グループで勉強したい.
 - ・尊敬語や謙譲語や丁寧語に分けて使い方を暗記する.
 - ・できるだけ会話をしたい.
 - ・いろいろな実践練習を通して学びたい.
 - ・ビデオで日本人が使っている敬語を見て, 使い方を学ぶ.
- ・ビジネス場面に応じた適切な会話表現 (25%)
 - ・仕事上, 商品説明やプレゼンテーションの方法 (15%)
 - ・敬語を使ったメールの書き方, 企画書の書き方 (20%)
 - ・敬語を使った会話の聴解 (聞き取り) (20%)
 - ・上下・親疎を含めた人間関係を配慮した敬語 (20%)
- (5) 上級総合日本語 3A を受けてよかった点はどんな点ですか. (2~3つに○をつける.)
- ・テキストを使って尊敬語・謙譲語・丁寧語など種類別に練習問題を解いて, 使い方がわかったこと (22.7%)
 - ・不適切な敬語表現例がわかったこと (4.5%)
 - ・敬語が多く使われている会話例として日本映画を見たこと (4.5%)
 - ・敬語を多く使ったメールや礼状の書き方を勉強して, 実際の書き方がわかったこと (27.3%)
 - ・ビジネス場面を考えて, 敬語を使った会話を作り演じたことで, 使い方がわかったこと (18.2%)
 - ・ゲスト講演 (山中フローリアン氏) の講演が聞いたこと (27.3%)
- (6) 上級総合日本語 3A では, 敬語を総合的に学びましたが, 今後上級レベルで敬語に特化した授業は必要だと思いますか.
- ・必要だ (80%), あってもよい (20%), 不要だ (0%)
- (7) 今後, 本授業を継続するとしたら, どんな敬語を学びたいですか. 希望する内容, 練習方法などを書いてください. (自由記述)
- ・ビジネスに関連する表現や用語をもっと勉強したい.
 - ・映画を見て, 台詞を暗記する.
 - ・電話や面接 (入社試験・大学院の入試の面接) など, 実際の場面に使われる敬語を学びたい.
 - ・ビジネスだけではなく, 親族のような関係の敬語を学ぶのもいいと思う.

5.2. 授業後のアンケート

- (1) 敬語の使い方はどのくらいわかりましたか.
- ・100%わかった (10%), 80%わかった (80%), 60%わかった (10%)
- (2) ビジネス場面で敬語を使うとき (会話), 自分はどううまく使えますか.
- ・100%使える (10%), 80%使える (30%), 60%使える (30%), 40%使える (30%)
- (3) 敬語でまだ難しいと思うことは, どんな点ですか.
- ・動詞の形が変わる点 (10%)
 - ・尊敬語 (0%)・謙譲語 (0%)・丁寧語 (10%)
 - ・どの場面で, どの敬語を使うかわからない (80%)
- (4) 敬語でもっと勉強したいと思うところは, どのようなことですか. (2つに○をつける.)

以上, 授業前アンケートでは留学生の希望を授業に反映させることができ, また, 授業後アンケートからは本授業の成果を知ることができた.

6. 考察

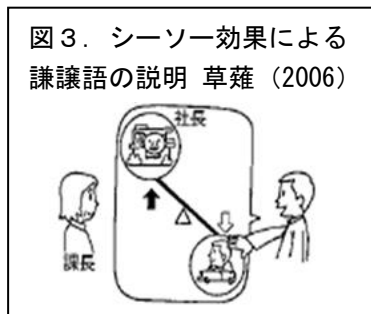
本稿は, 蒲谷 (2017) の指摘に基づき, 場面や人間関係に応じて, 学んだ敬語の知識をどのように適切に選択し, 的確に表現できるようになるかを図って, 総合的な敬語の実践研究を行った. 本授

業では、留学生を対象に敬語の復習としての基礎練習（尊敬語・謙譲語・丁重語・丁寧語・美化語他）、総合的な敬語の実践練習として映画鑑賞、講演会の実施、ミニ芝居の作成と演技、メールや手紙（礼状）の指導など、4技能（読む・書く・聞く・話す）の面から、総合的に敬語が実践で使えるように実施した。

6.1. 敬語の基礎練習

敬語の復習（基礎練習1～7）は、敬語の全体像を知るため、また、敬語の特徴を理解するための練習問題を解きながらの総復習はやはり必要であった。二重敬語など様々な不適切な敬語表現例も、具体例を多く提示したことで、どんな表現が不適切な敬語表現なのか、その理解に役立てることができた。

さらに、動作に関係する主体の人物を「高くする」ことを理解させるために、草薙（2006）の話し手と受け手がシーソーに乗っているような図を使った「シーソー効果」の説明は効果的であった。例えば、「社長のお宅に伺います」の謙譲語を説明する際に、話し手が自分の「行く」という行為に謙譲語を使うことで「へりくだらせ」（↓）、その結果行為の受け手（社長）を間接的に「持ち上げて」（↑）、「シーソー効果」で話し手が聞き手に対し、行為の受け手（社長）に敬意を示すことになる。「シーソー効果」による尊敬語や謙譲語や丁寧語の解説は具体的なイメージが付きやすいため、動詞の語形変化や表現から敬語の種類を判断するだけではなく、文の敬意の所在や意味を考える習慣が付くものと思われる。



6.2. 日本映画で学ぶ敬語

きれいな敬語やその場面が多く使われていて、留学生が興味を持って見てくれる映画ということで『秋日和』を選んだ。日本の古き良き時代として小津安二郎の作品の世界を留学生に知ってもらいたいという意図もあった。『秋日和』は敬語の授業では3回目の視聴となるが、留学生は内容は理解できても聞き取りとなると、断片的な敬語表現しか毎回聞き取れない。しかし、設定された場面や人間関係を背景に、留学生はどの言葉が尊敬語か謙譲語か判別しながら聞いて理解しようとする姿が毎回見受けられる。

6.3. ゲスト講演「野辺野神社の神主」

留学生は、日本語を学ぶ先に何を求めているのか、短期間の留学ではまだ決めていない学生が多い。留学生にとって目標となる存在として、野辺野神社の神主山中フローリアン氏に講演を依頼したことは成功だった。外国人が就けないと誰もが思っていた神主に、オーストリア出身の彼が実際に就いていて、しかも幼少の頃からの日本の神主になりたいという夢を実現できていること、神職に就くために日本の大学で神道を学んだこと、さらに完璧な日本語を身につけていることは、留学生に大きな感動を与えていた。

6.4. ミニ芝居の作成と演技

敬語の学習の総まとめとして、ミニ芝居を行うことにした。学生が作成したスクリプトや演技から、場面や人間関係、敬語表現がよく練られているか見ることができた。一方、演技を視聴する側からも、敬語表現や恩恵表現、その他の表現で、違和感のある点を指摘し合うことができた。また、外国人学習者が日本語を学ぶ際に、習得がむずかしい点がスクリプトには明確に現れていた（4.4.1, 4.4.2）。敬語は日本語の総復習になると思われる。

6.5. お礼の手紙

書き言葉の練習として、4.1で「先生に推薦状を書いてもらう」練習をしているが、ゲスト講演者へのお礼も、書き言葉の練習の一環とした。日本の習慣として、時候の挨拶や結びの言葉は留学生にとっては新鮮で、日本文化に触れた実感があったようだ。

6.6. 授業前と授業後のアンケート

留学生が、敬語の勉強で何をしたいのか希望に沿うような授業運営をするため授業前アンケートを実施した。留学生は日本語の学習で断片的に敬語を学んできてはいるが、本授業のように体系的にまとめた総復習が必要であることを実感した。また、留学生は将来日本語を使って仕事をする目標を明確に持っていて、それも日本人が入社してから学ぶような高度な敬語を学びたいということもわかった。授業後アンケートの結果からは、実践活動を通して敬語を「使って学ぶ」多くの機会が得られていたことがわかった。

7. まとめと今後の課題

以上、留学生を対象にアクティブ・ラーニングによる敬語指導を行った。本授業を通して、留学生は本授業の目標の一つである場面や人間関係に適した敬語が重要であることが理解できた。また、将来日本語を使って働くことを目標にするなど、どの学生もコミュニケーションの先に築きたいものを明確に見据えていた。敬語の学習は一方的な講義形式も必要であるが、日本語上級レベルの総仕上げという意味で、実践の機会を多く提供するアクティブ・ラーニング型の授業は成果が高いことが実証された。

留学生が即戦力となってグローバル社会で活躍できるようになるために、今後も日本人学生を交えた授業など、様々な実践的な指導を展開していきたい。

注

- 1) 「高度外国人材」については、「厚生労働省(2010)『平成22年度厚生労働省委託事業 企業における高度外国人活用促進事業報告書』142頁の定義に基づき使用した。
- 2) 国際交流センターの上級レベルでは、過去に敬語やビジネス日本語を実施していたが、近年は初中級レベルの指導の充実を図っていた。しかし、本文でも述べたように、「留学生受け入れ30万人計画」における「高度外国人材」育成の一環として、昨今留学生を対象に、多くの大学がビジネス日本語を指導する大学が増えてきたため、「上級総合日本語3A」では敬語、「上級総合日本語3B」では「ビジネス日本語」の授業を再開した。
- 3) アクティブ・ラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学修への参加を取り入れた学習法の総称、学習者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的な能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」(文部科学省中央教育審議会2012)
- 4) 『敬語の指針』(平成19年2月文化審議会答申)。詳細は、明治書院(2008)『日本語学』27-7を参照。
- 5) 使用テキストは、平林・浜(1988)『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ10 敬語』(荒武出版)

版)である。

- 6) 奥村・釜淵(2007)『仕事の日本語 電話対応基礎編』アルクを参考にした。
- 7) 『手紙の基礎知識・マナー』『手紙の書き方大事典』(2007) 参照。

謝辞

本授業を展開するにあたり、ミニゲスト講演にご快諾いただきました野辺野神社の山中フローリアン氏に心より感謝致します。

参考文献

- 平林周祐・浜由美子(1988)『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ10 敬語』荒武出版。
- 蒲谷宏・キムドンギョ・高木美嘉(2009)『敬語表現ハンドブック』大修館書店。
- 蒲谷宏編著(2010)『敬語コミュニケーション』朝倉書店
- 蒲谷宏(2017)「待遇コミュニケーション教育としての「敬語教育」の考え方 ―敬語教育への新視点―」『日本語学』36-6, 64-74.
- 片山莉那(2007)「手紙の基礎知識・マナー」『手紙の書き方大事典』(<https://www.letter110.net/manner/>)(2019年12月13日)。
- 菊地康人(1994)『敬語』角川書店。
- 厚生労働省(2010)『平成22年度厚生労働省委託事業 企業における高度外国人活用促進事業報告書』(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/gaikokujin/dl/100409a.pdf>)(2019年12月13日)。
- 草薙裕(2006)『敬語ネイティブになろう!!』くろしお出版。
- 明治書院(2008)「特集『敬語の指針』を考える」『日本語学』27-7.
- 三吉礼子・矢島清美(2004)『すぐに使える実践日本語シリーズ18 敬語(初・中・上級)』専門教育出版。
- 文部科学省高等教育局学生支援課(2008)『我が国留学生制度の概要 留学生30万人計画骨子』(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/081210.pdf)(2019年12月13日)。
- 文部科学省中央教育審議会(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shinigi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)(2019年12月13日)。

森勇太(2017)「敬語運用への新視点－多様性から捉え直す日本語の敬語」『日本語学』36-6, 16-27.
奥村真紀・釜淵優子(2007)『仕事の日本語 電話応対基礎編』アルク.

* Organization for the Development of Higher Education and Regional Human Resources, Mie University 1577 Kurimamachiyacho Tsushi Mie 514-8507 Japan

SUMMARY

In this paper, we examined the effectiveness of honorific language teaching by active learning for international students, and how to appropriately select and accurately use the knowledge of the learned honorifics according to the situation and human relations. This class included basic practice of respected language, modest language, polite language, beautified lexis etc. using a review of honorific language. In addition, movie appreciation, conduct of lectures and creation of mini-plays provided comprehensive practice of honorific language and behavior. Finally, attention to e-mails and letters (especially thank you letters) ensured honorifics were comprehensively taught in terms of the four skills (reading, writing, listening, speaking). From the results of the guidance and questionnaires conducted, every student understood that honorific language suitable for situations and human relationships was one of the goals of this class. They were focused on working in Japanese in the future, so they were clear what they wanted to build by learning honorific language. It was clarified that to achieve successful honorific language learning it is necessary to provide many types of practice incorporating active learning with a consciousness that these are the final touches at an advanced level of Japanese.

Keywords: International students, honorifics, scenes, relationships, lectures, mini-plays, active learning

† Masako Fukuoka* : A Practical Study of Honorific Language Teaching by Active Learning – Aiming for classes that are conscious of situation and human relations –